

令和7年度

半田小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら考え・対話する児童の育成
- ① わかる・できる・楽しい授業で基礎基本の定着を図る。
  - ② 対話を通して学びを深める授業を工夫する。
  - ③ 進んで学習に取り組み、自ら考えようとする態度を育てる。

校長

柳生 敦

学力向上推進員

川原 香代

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、情報交換等、様々な機会を捉え取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○算数の四則計算や漢字の読みは、定着率が高い。 ●漢字を書く力は、定着率が低い傾向がある。 ●計算の意味を考えて立式したり、漢字を文中で正しく使ったりすることに課題がある。 ●自分の考えを書く力や問題を読み取る力に課題があり、意見文を書くことや記述問題が苦手な児童が多い。	①速く正確に計算する力や、適切に漢字を使う力など、基礎基本の力が定着している。 ②正しく文章を読み取るとともに、語彙を増やし、適切な言葉を用いて文章を書くことができる。	①漢字ミニテストやドリル学習で反復学習を行い、復習する機会を増やす。 ②日記指導を行うとともに、授業や宿題で語彙力アップの問題や記述問題に取り組ませる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の気持ちや考えを伝えようとする児童が多い。 ○プレゼンテーションソフト等を活用して調べたことをまとめ、表現することに意欲的に取り組むことができる。 ●自主的に考え、答えを導き出そうとする力が弱い。 ●話し合いの進め方が分からず、内容が深まりにくい。	①自分の考えや意見を根拠を持って表現することができる。 ②話し合いの仕方を理解し、意見をまとめることができる。	①タブレットやホワイトボードなどをツールとして使い、根拠をもって意見や考えを伝える場面を設定する。 ②話形や話し合いの仕方を提示し、活発に話し合いができるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題等与えられたら課題には、真面目に取り組む児童が多い。 ●人の話を興味を持って聞こうとする児童が少ない。 ●将来に対して具体的な目標がなく、競う気持ちや挑戦する意欲が低い傾向にある。	①人の話に興味を持って耳を傾けることができる。 ②自分の将来像を持ち、発達段階に応じて具体的な目標を設定し、そのことに関わる活動をした後は、必ず振り返りを行う。	①授業中だけでなく、朝や帰りの会・学活などで最後まで話す・聞く指導を継続して行う。 ②総合的な学習や生活科の時間に様々な体験をしたり、ゲストティーチャーを招いたりして地元愛を育て、自分の目標や将来について考える機会を設ける。			